

東北真菌懇話会第 30 回例会プログラム

日時：2018 年 7 月 8 日（日） 9:30~14:45

会場：仙台サンプラザホテル 1 階ローズの間

仙台市宮城野区榴岡 5 丁目 11 番 1 号 ☎022-257-3333

1. ご参加の先生方へ

今後の各種案内に必要ですので、当日受付にて必ずご記帳下さい。

当日参加費として¥1,000 お支払い下さい。

2. 演題をご発表の先生方へ

a. スライドは 1 面です。枚数に制限はありませんが、発表時間内に終わるよう
ご留意下さい。

b. 発表形式は windows 版パワーポイントによる PC プレゼンテーションです。
1 面映写、動画には対応しておりません。Mac 版 PC、スライド使用の先生
は、事前に事務局までご一報下さい。

c. 発表時間はすべて 1 題 7 分としておりますが、厳密なものではありません。
討論時間は 1 題 3 分を見込んでおりますが、本会は堅苦しい学会ではあり
ませんので、活発な御討論をお願いします。初歩的な質問でも学習の機会
とお考えいただいて、ご遠慮なく御発言いただきたいと存じます。

主催：東北真菌懇話会 共催：科研製薬株式会社、日本医真菌学会

東北真菌懇話会

会長：出光俊郎（自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科）

事務局：さとう皮膚科クリニック

〒020-0114 盛岡市高松 3-11-33 ☎019-665-2333 FAX 019-665-2331

E-mail: tmsato@rose.ocn.ne.jp

9:30~11:30

会長挨拶

<一般演題 1>

1. *Microsporum canis* による体部白癬の1例

○角谷廣幸、角谷孝子（酒田市 あいおいクリニック）

22歳、女性。猫を1匹飼っている。6日前に右側頭部に、3日前に左上腕に、前日に右腰部に痒みを伴う落屑性紅斑が1個ずつ生じた。それぞれの皮疹部にてKOH法陽性。培養で黄色調のコロニーが得られた。患者と飼い猫のヘアブラシ法陽性。*M.canis*と同定した。

2. *Microsporum canis* による体部白癬の親子例

○鈴木長男¹⁾、安澤数史²⁾、望月隆²⁾

1)横手市 すずき皮膚科クリニック 2)金沢医大皮膚科

症例1：35歳、女性。躯幹上肢の皮疹で初診。猫を2匹飼っており、猫が布団の中に入ってくる。直接鏡検陽性。症例2：女性。症例1の母。当院で症例1が白癬を指摘されたため、その3週間後に下腿の皮疹で初診。両者ともラミシール®内服、アスタットクリーム®外用で軽快。後日金沢医大にてPCR-RFLP法で*Microsporum canis*と判定された。

3. 足白癬・部分角化型の1例

○石橋正夫（仙台市 石橋皮膚科クリニック）

症例：89歳男性。初診：平成29年5月31日。受診5年前から右足踵部分の鱗屑形成が始まり次第に角質の層状化が進行し、歩行に際して亀裂、出血、疼痛が激しくなり左右に杖を頼りに受診に至る。一見、足穿孔症を思わせる所見であったが、足全趾爪白色変色が有り、爪、角質の糸状菌陽性が確認出来たため、一切外用剤は不使用、テルビナフィンの内服を継続した。

4. 最近 20 年間の皮膚真菌症の推移

○笠井達也（仙台市 笠井皮膚科）

1988 年開業以来 30 年間の皮膚真菌症例は 10,786 例で、この間の外来患者総数の 10.1%。病型別延数は足白癬 8,707、手白癬 86、爪白癬 2,939、体部白癬 828、股部白癬 508、頭部白癬 12、カンジダ症 522、マラセチア感染症 214、スポロトリコーシス 1。此等の推移等を示す。

5. クレナフィン爪外用液 10%小容量規格の待望：

○塚田孝（下妻市 株式会社サンテ いちよう薬局）

クレナフィン®爪外用液 10%は、有用性も高く使用性もよいため患者さんの評判は極めて高い。しかし、開封後 1 か月で廃棄する必要なあるため、罹患爪数が 1 枚の場合内容量の相当量を廃棄することになる。医療資源の有効活用のため、小容量規格の包装を待望する。

6. 取材で明らかにされた意外な事実-トンスランス感染症-：

○加倉井真樹^{1) 2)}、梅本尚可²⁾、原田和俊³⁾、出光俊郎²⁾

1)加倉井皮膚科クリニック、2)自治医大さいたま医療センター、3)東京医大

トンスランス感染症は、低年齢化しており、さらに家族や友人からの感染も散見される。2016 年からの 2 年間に 18 例のトンスランス感染症がみられた。また、2017 年 10 月に読売新聞医療部よりトンスランス感染症について取材を受けた。その際、診療だけではわからなかった事実が判明したので報告する。

7. トンスランス禿瘡例

○真家興隆、森村広子（鶴岡協立）

17歳、男子。柔道部員。初診の1か月前、頭皮に毛囊炎様皮疹発生、近医にてイトラコナゾールの投与を受けるも症状拡大。3日前別医受診、38°Cの発熱あり、当科を紹介された。初診時前頭部に毛包炎、膿疱、腫脹、頸部リンパ節腫脹など認めた。創部より真菌鏡検陽性。培養同定はトングランス菌であった。テルビナフィン1錠/日で、3週間で効なし。2錠/日に増量し治癒した。広範な禿髪が残った。

8. 癬風に似たまれな疾患-granular parakeratosis-

○出光俊郎、高澤摩耶、川瀬正昭、梅本尚可（自治医大さいたま医療センター）、中村哲史（春日部中央総合）

26歳、女。2017年夏から両腋窩の褐色局面あり。腋臭症のためデオドラント使用。両腋窩に褐色局面と落屑。組織は角質層内に keratohyaline 顆粒の残存あり。Vit.D3 外用有効。稀な疾患であるが、癬風や脂漏性皮膚炎として治療されている可能性あり。

9. 結節性病変を呈した *Mirrored gypseum* による頭部白癬の幼児例

○出光俊郎、永島和貴、高澤摩耶、川瀬正昭、加倉井真樹、梅本尚可（自治医大さいたま医療センター）、望月隆（金沢医大）

2歳、男。1か月前から頭部に胡桃大結節。KOHで毛外性小孢子寄生。Lamisil0.5錠/日 x 7週で治癒。病毛より *M.gypseum* を分離、ribosomal RNA 遺伝子の ITS 領域の配列より *Nannizia gypsea* と同定。

10. 水虫はなぜ治りにくいのか？

○宮田聡子（さいたま市民医療センター皮膚科）

自然免疫の研究の進歩により、ヒト皮膚は、物理的バリアー、生物学的バリアー、抗菌物質からなる3つの連続シールドで防御されていることが解明されて

きた。特に、蛋白性抗菌物質には psoriasin、cathelicidin、 β -defensin、dermcidin などが知られており、これら抗菌タンパクは、グラム陰性菌、グラム陽性菌、真菌などに対しブロードな抗菌スペクトルを有することが明らかになってきた。抗菌タンパクの一つである dermcidin は、白癬菌に対して静菌的に作用することが報告されている。自然免疫を逃れた白癬菌は、特異的免疫応答、すなわち細胞性免疫により排除されるが、白癬菌に対するこのような一連の免疫応答の関与が病態に影響し、“水虫は治りにくい”と考えられる。

特別演題：

日本医真菌学会トピックス 2017-医真菌学の話題と今年の展望

演者：東京医大皮膚科准教授 原田 和俊先生

11:30~12:00

皮膚真菌症 mini ハンズオンセミナー「真菌培養-きほんのき」

隣室にて簡単な培養法を実技を交えて解説します。

同時に会場後部に金沢医大皮膚科学教室から御厚意で供与いただいたスライドカルチャー標本を展示します。ぜひ、ご覧下さい。

12:00~13:00

ランチョンセミナー：爪白癬-up to date

演者：東京医大皮膚科准教授 原田 和俊先生

13:00~14:45

<一般演題 2 >

11. 侵襲性肺アスペルギルス症の既往があり、同種移植前に胸部 CT で病変の消失を確認した症例に対するフルコナゾールを用いた真菌予防投与

○赤星佑、木村俊一、後明晃由美、早川仁、玉置雅治、原田尚憲、楠田待子、亀田和明、鵜飼知嵩、和田英則、石原優子、河村浩二、坂本佳奈、佐藤美樹、

斎藤桐子、菊池美里、仲宗根秀樹、賀古真一、神田善伸（自治医大さいたま医療センター血液科）

侵襲性肺アスペルギルス症（IA）の既往があるものの、同種移植前に胸部CTで病変の消失が確認されている症例に対して、当院では真菌予防にフルコナゾール（FLCZ）を使用している、本研究では150症例の同種移植患者の後方視的解析からこの治療戦略の妥当性を検討した。

12. 口腔扁平苔癬とカンジダの関連

○小澤通子¹⁾、神部芳則¹⁾、森良之¹⁾、上川善昭²⁾、出光俊郎³⁾

1)自治医大歯科口腔外科 2)鹿児島大大学院医歯学総合研究科・顎顔面機能再建学講座・顎顔面疾患制御学分野 3)自治医大さいたま医療センター皮膚科

口腔扁平苔癬（OLP）を疑った生検標本ではカンジダの付着を認めることが多い。当科外来を受診し、OLPと診断した患者68例を対象とした。基礎疾患、OLP臨床型を検索、舌背と病変部の2か所より検体を採取した、カンジダの検出率は44.1%と高く、影響が示唆された。

13. 上下唇に腫脹を伴ったカンジダ性口唇炎の3例

○小澤通子¹⁾、神部芳則¹⁾、森良之¹⁾、出光俊郎²⁾

1)自治医大歯科口腔外科 2)自治医大さいたま医療センター皮膚科

口腔カンジダ症は口唇での報告は顎口腔領域では比較的稀である。口唇腫脹を主訴に来飲した3例において生検を施行したところカンジダ性口唇炎診断となり、ケトコナゾール外用を開始したところ腫脹が消失した症例を経験したため、文献的考察を加えて報告する。

14. 潰瘍を呈しヨウ化カリウムが著効を示した固定型スポロトリコーシスの

1例

○山田真嗣¹⁾、松本崇直¹⁾、竹下雅子¹⁾、高澤摩耶¹⁾、梅本尚可¹⁾、川瀬正昭¹⁾、加倉井真樹¹⁾、井上多恵¹⁾、酒井利育²⁾、原田和俊³⁾、出光俊郎¹⁾

1)自治医大さいたま医療センター皮膚科 2)同細菌検査室 3)東京医大皮膚科

78 歳男。初診 1 年前に右手首に皮疹出現し 3 か月前に潰瘍を呈した。皮膚生検で異物反応伴う膿瘍、Grocott 染色陽性菌体あり。真菌培養で *Sporothrix shenickii* 分離。スポロトリキン反応陽性。ヨウ化カリウム 1.0g が著効。

15. クロモミコーシスの 1 例

○佐瀬裕先生（会津若松市 佐瀬皮膚科医院）

75 歳男。4、5 年前から腰部の赤褐色局面で来院。ステロイド外用無効。鏡検で糸状菌陰性。診断できずに生検して sclerotic cell を見逃していたことに気付いた。イトラコナゾール 200ng/day と温熱療法で治療中。

16. 指趾の爪囲炎を呈した爪カンジダ症

○牧 伸樹（独立行政法人国立病院機構あきた病院）

60 歳代、男。盲腸癌の転移あり。気管支炎に対する抗生剤とガンマグロブリン製剤の点滴静注後、指趾末梢の発赤・腫脹・疼痛が出現。爪上皮～爪半月に黄緑色の混濁あり。爪の KOH 鏡検で多数の菌糸あり。抗真菌剤の静注と外用治療を行い、半年で治癒した。

17. 陰茎包皮のカンジダ症：

○角田孝彦、佐藤文子（山形市立済生館）

49 歳男。2 か月前から陰茎包皮に赤みあり。1 か月前に前医受診しカンジダを疑い真菌鏡検したが陰性。弱いステロイド軟膏を外用したが変わらず、19 日後の再診でも真菌要素陰性。当科紹介となる。真菌鏡でわずかに孢子と菌糸あ

り。抗真菌剤外用 2 週間で軽快。

18. ピチロスポルム毛包炎-パーカーKOH染色所見の経時的変化-
○角田孝彦、佐藤文子（山形市立済生館）

53 歳男。夏に顔面神経麻痺で耳鼻科に入院し、ステロイド投与後に両上腕に小丘疹、膿疱出現。紫外線をあてると小丘疹に黄色蛍光あり。小丘疹をひっかいたものをパーカーKOH染色し、10 分後、1 時間半後、3～4 時間後、18 時間後、3 日後に観察した。

19. 遺伝性掌蹠角化症患者にみられた手足白癬
○野村和夫（弘前市 青山のむら皮膚科）

27 歳、男性。手足の「あれ」を主訴に受診。出生時から手掌足底にびまん性の紅斑過角化局面あり。遺影部は指背、足背にも及ぶ。母に同症。手足に鱗屑多量にあり。これらについてはこれまで医治なし。遺伝性掌蹠角化症が白癬の発生母地になりうるかについて考察する。

20. 手湿疹とまぎらわしい手白癬の 1 例
○佐藤俊樹（盛岡市 さとう皮膚科クリニック）

70 歳、2 年前から両手に手湿疹を繰り返す。2018 年 5 月にも左手に鱗屑が生じ、念のため検鏡したところ菌要素がみられた。抗真菌薬外用にて臨床症状は悪化。